

2018.7.21 金子

ロータリーの標語(モットー)について(No.03)

ロータリー・クラブでは、二つの標語を掲げられ、活動の指針とされています。

それは、

第一標語として

『**超我の奉仕**』 (Service Above Self)

第二標語として

『**最もよく奉仕する者、最も多く報いられる**』

(One Profits Most Who Serves Best)

ロータリーの第一標語は、1911年の国際大会で、ミネアポリス RC 会長のフランク・コリンズが、『**無私の奉仕**』 (Service, Not Self) という言葉を最初に使い、後に『**超我の奉仕**』 (Service Above Self) に修正されました。

これからのお話は、度々地区および宇部 RC 内で指摘されている事ですが、あくまで私的な思いとして聴いて下さい。

さて、ここで、注意すべきことは、『Service』の日本語訳としての『奉仕』の言葉です。

まず、日本語でのサービスは、国語辞典によると『相手の為に気を配って尽くしたり、物を売るときに値引きしたり、景品をつけたりすること』となっています。更に前者においては『家庭サービス』とか『サービス精神』とか言うような形で使われる。また、後者では、無償で配られる『景品』がサービスであると言っています。そこで、これらの定義から考えると日本語では『サービス』という言葉が『無償』という概念にも結びついていることがわかります。

一方、英語では、辞書による定義をみる限りでは、日本語のようにはっきり『無償』であるとわかるような概念はありません。また、英語では日本語にあるような『家庭サービスをする』と言うような言い回しは、『spend time with one's family』ということになり、『service (サービス)』という言葉は使わないようです。また、『家族サービス』と言うような言い回しは英語にもありますが、これは『family duty』と言うそうです。つまり、こちらも『service』という言葉は使われていません。更に、前出の『景品』も英語では“service”ではなくて、“giveaway”とか“free gift”とか言われています。以上からもわかる

ように、英語には、日本語で使われるような『service』という概念はないようです。

従って、英語の『service』の訳である『奉仕』について、ロータリーでは“**適正な報酬**”を認められています。その意味でもやはり『奉仕』という日本語訳には問題があると言われています。

同様に、Above Selfの訳である『超我』についても、私は疑問を感じています。己を捨てるとういう場合、英語では『to ^{s'æk'rəf'aɪs}sacrifice oneself』、『sacrifice oneself』、『sink oneself』、又は『die to self』、と言うそうです。『above Self』を使う場合には、『rise』を頭に付けて『rise above Self』と言うそうです。

念のため、改めて『above』を英和辞書で引くと、

より上に、より高く、の上に(出て)、の上流に、(数量など)…を超える、
(地位・身分など)…より上位に、…よりむしろ、…を超えて

『above Self』と言った場合、直訳は「自身より上に」となり、その意識は、『自分よりむしろ』又は『自分は二次的に』になるとと思います。滅私奉公的な意味は更々ないのではと思われます。

以上、二つのRCの標語について今一度意識して頂ければと私的解釈をお話しました。

話が変わりますが、企業経営において、企業理念、経営理念、ミッションステートメントなどがありますが、これらはロータリーの標語は、経営理念に相当すると思われれます。一般的に経営理念の内容は、行動規範的なもの、経営の成功のための鍵や経営姿勢を示すもの、企業の存在意義を示すものなどいろいろな形で表現される。一般的には、社会、顧客、および社員の三者に関する理念が設定されることが多い。

その代表的なものに「松下幸之助の言葉」があります。

『世の為、人の為になり、ひいては自分の為になるということをやったら、必ず成就します』

以上で、会長の時間を終わります。